令和6年度 4学年授業改善プラン

大田区立矢口小学校

1. 昨年度の授業改善プランの検証

- 【国語】言葉を使って自分で考え適切に判断し、自分の考えを伝える力はあるが、考えを要約する ことに課題が残る。
- 【社会】日常生活に関連付けて考えることができる場面が増えた一方で、社会の学習用語を知識として十分に理解させるとともに定着させる必要がある。
- 【算数】既習事項はよく理解することができている。問いの文章を理解しきれない児童や数学的な 表現を用いて説明することに苦手意識をもつ児童がいる。
- 【理科】既習事項の理解はできているが、分析することに課題が残る。

2. 大田区学習効果測定の調査結果

(「主体的に学習に取り組む態度」については児童の様子で評価)

教科	国語		社会		算数		理科					
全体	•		0		0			0				
	•	0	•	•	0	0	0	0	•	•	0	0
観点別	知識・技能	思考·判断·表現	主体的に学習に取り組む態度	知識·技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識·技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識·技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

- ◎ 正答率平均が目標値を上回った教科・観点
- ◆ 正答率平均が目標値と同程度の教科・観点
- ▽ 正答率平均が目標値を下回った教科・観点

3. 各教科の授業改善プラン

(1) 国語·社会·算数·理科

- 【国語】 国語辞典、漢字辞典を日常的に使わせることで言葉に対する関心を高め、語彙や知識の拡充を図る。物語や説明文の読みの学習では、課題を明確にし、何について課題解決を図るのかをはっきりさせて読み取らせるようにする。ローマ字の学習では、読む・書くだけではなく、使うことを意識させた活動を取り入れる。
- 【社会】 社会で学ぶ内容が自分たちの生活とどのように関わっているのかを具体的に示し、知識の有用性を理解させる。また、学習したことや調べて分かったことなどを振り返りの活動で確認し、社会の学習用語の意味や資料の読み取り方など知識の定着を図る。
- 【算数】 習熟度別学習で児童のつまずきを把握し、実態に応じた指導の工夫をする。自分の考えを文・図・式で表し、友達に伝えたり全体に発表したりする活動を多く取り入れる。文章題の内容を正確に把握するために、重要な言葉や数字に線を引き、情報を整理することを指導する。

【理科】 根拠ある予想や仮設立てるようにするために、既習事項の確認を丁寧に行ったり、共通の活動体験を充実させたりする。分析する力を育てる工夫については、考えやすい問いかけや結果を表や図に整理させ比べやすくする、考察の書き方を例文で表し力を育てていく。

(2)音楽・図画工作・体育

【音楽】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)					
知識•技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
◆集団としては歌唱・器楽ともに	◆思いや意図をもって表現す	◆意欲的に取り組んでいる児童			
学習した範囲の技能は理解で	ることが苦手な児童が多い。	が多いが、音楽的表現の幅が			
きているが個人差が大きい。	○曲想表現方法を多く学習し、	広がらない。			
○二声部の合唱に取り組むので、	各曲の特徴を見出す学習を	○現状に満足せず、様々な演奏			
聞き合って声を出すことに注	展開する。	を多く聞かせ、自己の演奏の			
力していく。		目標をもたせていく。			

【図画工作】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)						
知識•技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
◆水彩絵の具を使った活動での	◆発想や表現の差が見受けら	◆主体的に取り組む児童が多い				
技能的な差が見受けられる。	れる。	中、苦手意識から受け身的な				
○実技の指導時にICT機器を	○発想を広げるためのポイン	児童もいる。				
活用し視覚的に分かりやすい	トを共有し、自分のイメージ	○何に苦手意識をもっているの				
指導を丁寧に行い、ポイントを	や表わしたいことを表現で	かを明確にし、具体的な改善				
おさえるようにする。	きるように丁寧な指導を行	案を示す。				
	う。					

【体育】

【仲育】						
観点別課題(◆)と改善プラン(○)						
知識•技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
◆自分の課題からめあてを立	◆自己の課題を見付け、その解	◆主体的に取り組む児童が多い				
て、めあてを達成するために	決のための活動を工夫するこ	中、苦手意識から受け身的な				
技能ポイントを意識したり、	とが苦手な傾向がある。	児童もいる。				
練習方法を工夫したりしなが	○学習カードを活用し、自分に	○お互いの良かったところや、				
ら、活動する経験が乏しい。	合った目標を設定し、スモー	改善点を伝え合うことができ				
○自分の課題を見付けられるよ	ルステップで取り組めるよう	るよう、授業中に話し合いの				
うに、タブレットを使用し、ア	にする。	場面をつくる。				
ドバイスを出し合う時間を設						
定する。自己の運動能力に合						
った場を選択できるよう、段						
階的に場を増やす。						